千葉（ちば）　悟郎（ごろう）
（市民クラブ）

●「図書館運営」と「除染のあり方」について

質問　合併後、奥州市の小・中学校に図書館臨時司書を年次計画で配置してきているが、全体に配置される完了年度は。

教育委員長　小・中学校図書館臨時司書の配置完了は平成26年度としている。

質問　臨時司書であるが、司書免許や司書教諭免許を持っている人たちが多い。市の臨時的任用職員賃金単価表の職種区分に司書・司書教諭を設ける考えがないか。

市長　職種区分の変更は、さまざまな影響が出るので今後の検討課題としたい。

質問　水沢図書館のマイクロフィルムを使用するプリンターが故障が多く耐用年数も過ぎているので、取り替えるべきと考えるが。

教育委員長　このプリンターは、マイクロフィルムに納められている古い資料や古文書などをプリントするのに必要な機器ですので検討したい。

質問　各区で放射能の除染についての説明会を町内会の役員を集めて開催したが、その説明に多くの質問があり、即答できないものは持ち帰って検討するとしていたが、いつまでに知らせるのか。

市長　3月半ばごろまでに地区センター等に知らせるように努力中。

質問　町内会の役員は説明を聞いて、町内の人たちに説明し、除染の指導をすることになっているが、最初の除染の活動には市の担当課の派遣を願う。

市長　連絡があれば、かならず指導にあたる。

高い関心を示した除染説明会（水沢会場）

佐藤（さとう）　邦夫（くにお）
（市民クラブ）

●奥州市の学校教育の方向性について

質問　農業が基幹産業である奥州市においても、後継者不足、未婚の男女の増加、少子高齢化など大きな社会問題になっている。何か良い考えはないかとみんなが知恵を出し合い、それぞれ様々な手立てを講じているが解決に向けた有効な手段がないのが現状だ。このような問題を少しでも解決出来る可能性として、地域の小学校、中学校でも「農業の楽しさ、面白さ、経済的可能性」等をしっかりと教える必要があるのではないか。子供たちを奥州市から出て行くような教育ではなく、地元に残りあるいは戻って地域のために生活してもらうような教え方が大事だと思う。例えば奥州市で30種類の野菜の名前と実物が分かる生徒は何人いるだろうか。栄養素や美味しい野菜の見分け方など加えて覚えれば、少なくても青果物を扱うスーパーやデパート、専門店などでの採用の道も開けるというものだ（もっと広がりがあります）。地域と協力し色々な分野のある、すそ野の広い農業等の一次産業の楽しさ、有意義さを奥州市で強力に進め、多くの生徒に地元に残るような教育を推進すべきではないか。又「結婚をして子供も含めた家庭を営むことが、最高の幸せなんだ」ということも教えて頂きたい。

教育委員長　農業は奥州市の基幹産業であるし、その重要性から現在も地域の方々の協力を得て、作業体験なども取り入れている所だが、議員の言われる趣旨はその通りだと思うので、今まで以上に力を入れて農業や一次産業等の大切さや面白さ等教えていきたい。

農業の楽しさを体験（江刺区内）